

私はまだ将来何をやりたいのか決まっていない。しかし、今回の東京研修で学んだことはとても多く、将来を考えていく上で、役に立つものばかりであった。たくさんあるため、それぞれ分けて書きたいと思う。

1, ディレクトフォース

事前に考えた質問に対する答えのみならず、たくさんのお話をしていただいた。いろいろな素晴らしい経験をしてきた方たちのお話や考えには、感銘を受けたとともに、考えさせられるものがあった。特に印象に残っているのは「複眼思考」についてのお話である。その方は、お話をしてくださる前に、私たちにある地図を見せてくれた。しかしそれは、私たちが普段見ている地図とは違い、北に日本があり、南に中国やロシアなどのユーラシア大陸が見られる、全体を90°回転させたような地図であった。私はその地図を見たとき、初めはそれがどこの地図だか分からなかった。そのとき、地図を見せてくれた方は「普段見ている地図に依存してしまうと周りが見えなくなってしまう。このように違う方向からみたり、外から見たりして、視点を変えることが複眼思考であり、とても大切な考え方である。これは、地図だけでなく他のことでも言えることであり、どんなことでも1つのことに依存して周りが見えなくならないようにしてほしい。」とおっしゃっていた。私自身、身近に複眼思考を持つことの大切さを実感した瞬間だったのに加え、あらゆる場面で複眼思考を持って考えようと思わされた。

また、どの方にも海外に早いうちにいくことをすすめられた。それは、異文化を体験することで、違ったものの見方や発想ができるからだそう。狭い価値観にとどまらず、視野をできるだけ大きくもつことは、これからの社会で求められていることだと私自身も思う。そのためにもやりたいことだけではなく、やらなければならないことにも一生懸命取り組むことで視野を広げたり、言語を増やす努力をしたり、自分は何ができるのか、何を持っているのかを考えなくてはいけないとも思った。

2, 企業訪問

私たちの班はまだ将来の夢がはっきりしていない人、地学に興味がある人が集まった。そのため、ぼんやりと地学系のところに行きたいというのはあったものの、行き先決めや、質問事項を考えるのは、正直かなり悩んだ。そんなときインターネットで調べていて出会ったのが新領域創成科学研究所であり、田近先生であった。実際は新領域創成科学研究所ではなかったものの、田近先生のご協力のおかげでたくさんのお話をきかせていただくことができた。スノーボールアース仮説（全球凍結仮説）などの専門的なお話から、研究者とは何か、なぜ研究の道を選んだのかという素朴な疑問まで幅広い質問に答えてくださった先生に心より感謝している。

はじめに、私は先生に一番気になっていた「なぜ研究職の道を選んだのか」という質問をぶつけてみた。その答えは意外にもあっさりしていて「なんとなく気がついたら」だそう。しかし、修士課程から博士課程に行くかどうかの選択は皆迷うようで、実際先生ご自身も、就職活動をしており、内定もでていたそう。それでも夏休みの研究で成果が出たことの影響もあり、博士号を取ることを決意したそう。「人生は選択の連続。後から正しかったと思うには、どういう選択をしても頑張ることが大切」とおっしゃった田近先生の姿は本当に今までの選択に後悔を感じたことなどないというくらい自信に満ちていた。そして単純にも、私も田近先生のように自分に自信を持って生きていきたいと思った。

また、最近身近になってきている地球温暖化問題についても聞いてみた。対策は一人一人では難しいかもしれないが、意識することは重要であり、今まで思いつかなかったような画期的な削減方法を科学技術の面から考えることが必要であるだろうとおっしゃっていた。また最近では、企業側も新しい試みを生み出しているところが多いことが分かった。地球温暖化防止には、国境を越えた皆の協力が必要不可欠なのだと感じた。

3, 二高 OB・OG 座談会

私はこの座談会があつて本当によかつたと思っている。私の場合、この座談会が一番の収穫と言っても過言ではないかもしれない。東京研修の中では私たちに一番身近である二高の先輩方とお話できたのに加え、次の日の東大見学会の前に、東大について学べたことはとても良い経験になった。「将来の夢が決まっていななら東大へ。」これは何人かの先輩方とお話した中で最も多く出てきた言葉である。というのも、私はこの研修まで東大の『新振り(進学選択)』という制度を知らなかつたのである。通称新振りと呼ばれるこの制度は、1年生と2年生の途中までの成績をもとに3年生からの進学先を決めることができる制度であり、大学で学びながら自分にあつた進学先を決めることができるものである。実際、理系で入学したけれど、文系の学部に進学することも、ごく普通にあるのだそうで、私はこの制度に魅力を感じたとともに、もっと大学について調べなくてはと痛感させられた。

また、もう1つ興味深いお話があつた。それは、将来なりたいことがはっきりしていないということは、自分が見えていないということなのではないか? というもので、将来がはっきりしていないのであれば、一度自分を見つめ直してみると、実は共通点を見つけることができ、将来を考える上で役に立つのではないかという考えには、確かにそうかもしれないと思わされた。また、「N2SF」という言葉も紹介していただいた。「N2SF」というのは、現在で1つ以上、過去で2つ以上、自分の強みや誇りに思うことをすぐに言えるか? ということ、そして、それを言えるようにした後、そこから未来について考えていこうということである。また、将来を細分化し、まずは明日にはこうなりたい! から考えてみて、来月にはこうなりたい! 1年後には、将来は……と考えていくとより現実化し、モチベーションもあがるそう。

他にも定期テストの勉強の仕方や、なぜ東大に入ったのかなど、たくさんのお話をし、有意義な時間を過ごすことができた。

4, 東大見学

東大生(FairWind)の方々がいろいろな企画をしてくださり、私は良い意味で皆の東大に対する偏見が解消した見学会だったと思う。私は今まで、東大は雲の上のような存在で、きっと天才ばかりがそろっているんだろうな。と思っていた。しかし実際は違った。皆必死で勉強して、こつこつと問題の理解を積み重ねてきたからこそ東大生として今生活を送ってらっしゃるのだと感じた。校舎は歴史を感じられる建物が多く、たくさんの銀杏の木で囲まれた素敵な環境がそろっていた印象がある。また、東大の先輩方も皆親切で、明るく、好感が持てた。この見学会では現役の東大生のプレゼンを聞いたり、実際にディスカッションを通して将来や現在やるべきことや、やっておいた方が良いことは何かを話したりした。東大生は皆、自分の研究や自分のやりたいことの話を始めると、目が輝き、本当にやりたくて勉強をしているんだと感じた。また、そんな先輩方の姿に憧れを感じさせられた。これからは苦手な教科にももっと興味をもって取り組んでみようと思う。

5, まとめ

私が東京研修に行こうと思ったのは、将来のためにもいろいろなことに触れて、自分の視野を広げたい！東大生などたくさんの高い志をもった方々と話してみたい！という思いからだった。たくさんの人たちとディスカッションしたことで、自分だけの考えではなく、他人の考え方や感じ方、また、大学や企業のことなどの情報を得られたとともに、ディスカッションをする力もついたと思う。

私はこの2日間で本当にたくさんの経験をする事ができた。もし、この研修に参加するか迷ってこの文章を読んでいる人がいたら、私はぜひ行くべきだと薦めたい。